

リュブリャーナ大学文学部アジア・アフリカ学科日本研究講座
1999/2000年度 機関報告

1. 機関概要

所在地 Filozofska fakulteta, Univerza v Ljubljani
Aškerčeva 2
1000 Ljubljana, SLOVENIA
電話 +386-(0)1-241-1446

アジア・アフリカ学科は、1995/96年度にリュブリャーナ大学文学部内に設立され、当初から日本研究と中国研究の2講座が存在する。スロヴェニアでは、両研究分野とも、当学科設立以前はスロヴェニア東方学会の枠内で活動があり、一般向け語学講座やシンポジウムなどを行っていたが、学科はそれらの活動を吸収、発展させている。

2. 日本研究スタッフ

教授	アンドレイ・ベケシュ	Andrej Bekeš
助手	寒川クリスティーナ	Kristina Hmeljak Sangawa
	重盛千香子	Chikako Shigemori Bučar
	若野恵	Megumi Moshino
	倉品さやか	Sayaka Kurashina
外国語講師	加藤紀子	Noriko Kato

3. 学生数 (1999年10月現在)

1年生	71名
2年生	48名
3年生	29名
4年生	10名
(5年生)	9名
一般向け公開講座 (初級) 学習者	約20名

4. 日本研究カリキュラム (数字は週当たりのコマ数、1コマ50分)

1年生	現代日本語I (講義2、演習5、LL1、表記2) 東アジア史I(2)
2年生	現代日本語II (講義2、演習6) 日本語文法概論(2) 研究方法論I (2) 東アジア史II (2)
3年生	現代日本語III (講義2、演習2) 日本文学概論 (2) 翻訳入門I (2) 古典入門 (2) 中国哲学 (2)
4年生	翻訳入門II (2) 東アジア文化史 (2) 日本語情報処理入門 (2) 研究方法論II (2)
選択科目	古典 (2)、書道 (2)、漢文 (2)、イスラム史入門 (2)

5. 今年度の主な動き

集中講義 客員教授として、高橋武智先生に秋と春の二回（「東アジアの宗教史」と「東アジアの文化史」）、そして砂川裕一先生には春（「日本事情」）に集中講義（各60時間）をお願いした。

実習 筑波大学日本語日本文化学類から3月に4人、7月に3人、日本女子大学から3月と7月に1人ずつの学生が当学科の学生、および学外からの学習希望者を対象にそれぞれ2週間の日本語および日本文化教育実習を行った。

留学 筑波大学日本語日本文化学類との協定のもとに、99年9月に2人、2000年4月に3人、つくばへ1年間留学。
99年10月に日本文部省奨学金の日本語日本文化研修留学生として筑波大学へ1人1年間留学。
99年10月に東北福祉大学へ1か月の短期留学5人。
2000年7月に国際交流寄金日本語成績優秀者研修に1人（2年生在籍）参加。
2000年3月に群馬大学社会情報学部と本大学文学部の間で協定が成立、2000年10月より群馬からリュブリャーナ、リュブリャーナから群馬へそれぞれ一人ずつ留学生交換の予定。
2000年10月から日本文部省奨学金の日本語日本文化研修留学生として1人1年間留学の予定。

教科書 1年生対象の語学の教科書と辞書が当大学文学部出版局より出版された。
教科書 *Sodobni japonski jezik I --- prvi koraki*（現代日本語I上）
守時なぎさ、小林玲子、武田詩子、高木陽子、倉品さやか著
辞書 *Japonsko-slovenski in slovensko-japonski slovarček k učbeniku*
Sodobni japonski jezik I（現代日本語I 日本語・スロベニア語 スロベニア語・日本語語彙表）寒川クリスティーナ著

なお、2年生の語学演習には次の市販教科書を使用した。
An Integrated Approach to Intermediate Japanese（中級の日本語）
Akira Miura & Naomi Hanaoka McGloin, The Japan Times 1994

学科紀要 *Azijske in afriške študije*（『アジア・アフリカ研究』）
刊行が年1回から年2回に増加。

6. 問題とこれからの課題

語学・言語学以外の科目が不十分であり、文学、文化、歴史、事情などの分野のスタッフや講義時間数をより充実させる必要がある。

学生は、日本語と併行してもうひとつの専攻も履修しなければならないため、負担が重い。学生数が多く、教師の負担も大きい。来年度から入学試験を設け、日本語学習へのモチベーションがある程度高い者に限って入学させるという案を検討中である。

文責 寒川クリスティーナ
重盛千香子